

2026年度 発達保障学校

# *SYLLABUS*

(講義計画)

人間発達研究所

コース名 「入門の入門」コース	2026年度回数 3回	担当者 安藤史郎・黒川真友・松永朋子
<b>授業の内容</b> 入職後3年くらいまでの方が対象のコースです。乳幼児期から成人期を対象とする方まで、「座学でしっかり学び」→「悩みを出し合い」→「学びを共有して明日からの実践につなげる」という構成で、グループワークもしながら学び合います。「わからない」を共有し合っ て、お互いの学びを深めましょう。目の前で起こっている問題や悩みを発達的に読み解くと どうなるのか。そのような見方・考え方の入り口に立てることをめざします。講義で発達や 発達保障について基本的なことを学び、実践の楽しさや難しさについて、みんなで分かち合 いましょう。		
<b>授業の流れ</b> *日程について変更となる場合は受講者と相談します <b>8月23日(日)</b> 9:00~12:30 (発達) ①講義「発達を学んで？」 ②講義の「わからない・印象に残ったところ」のわかちあい ③仕事の悩み、実践の悩みのわかちあい  <b>10月4日(日)</b> 9:00~12:30 (実践) ①講義「発達的理解を実践にいかすって？」 ②講義の「わからない・印象に残ったところ」のわかちあい ③みんなでわいわい事例検討～発達の視点で見るとどうなる 宿題「気になるニュースを持ち寄ろう」  <b>12月6日(日)</b> 9:00~12:30 (社会とのつながり) ①気になるニュースのわかちあい「気になるニュースを持ち寄ろう」 ②講義「私たちの仕事と社会のつながりについて」 ③講義の「わからない・印象に残ったところ」のわかちあい		
<b>その他</b>		

<p>コース名 発達保障入門コース</p>	<p>2026年度回数 5回</p>	<p>担当者 坂本彩</p>
<p>授業の内容</p> <p>目の前の人と関わる中で、「これでいいのかな？」と悩むことは、日々の実践の中で少なくないと思います。また、入職した職場で「発達保障」という言葉を耳にすることもあるかもしれません。</p> <p>本コースは、日々の実践に悩む人が立ち返る場所として、「発達保障」について基礎から学び、参加者同士で考えを深めていくことを目的としています。</p> <p>「入門」とあるように、発達保障の扉を少し開いてのぞいてみることで、そして、もう少し足を踏み入れてみたくなることを大切にしました内容です。</p>		
<p><b>授業の流れ</b>（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>参加者のみなさんの声を聴きながら授業内容を工夫していきたいと思えます。 シラバスから変更になることもあるかもしれません。</p> <p><b>第1回 5月 31日（日） 13:30～16:30</b></p> <p>①発達保障 — なりたい自分になる。 わたしもあなたも、なりたい自分になることを応援し合う。</p> <p>②ゲストを迎えて</p> <p>③グループ討議</p> <p><b>第2回 6月 21日（日） 13:30～16:30</b></p> <p>①発達保障の考え方が生まれた背景</p> <p>②文献読み合わせ</p> <p>③グループ討議</p> <p><b>第3回 7月 19日（日） 13:30～16:30</b></p> <p>①権利としての発達保障</p> <p>②文献読み合わせ</p> <p>③グループ討議</p> <p><b>第4回 8月 23日（日） 13:30～16:30</b></p> <p>①私たちの発達保障</p> <p>②文献読み合わせ</p> <p>③グループ討議</p> <p><b>第5回 9月 6日（日） 13:30～16:30</b></p> <p>①文献読み合わせ</p> <p>②グループ討議</p> <p>③まとめの講義</p>		

<p>コース名 発達入門コース</p>	<p>2026年度回数 5回</p>	<p>担当者 高田智行</p>
<p>授業の内容</p> <p>発達の基本について学び、考える入門コースです。0歳から就学までの発達の道筋を追いながら発達の理論について話をします。その内容について、乳幼児健診や保育等の発達保障実践を例に学びを深めます。5回のコースを受講することで、実践を発達の視点でみることをめざします。</p>		
<p><b>授業の流れ</b>（スケジュール・内容等の計画）</p>		
<p><b>第1回 6月 28日（日） 13:30～16:30</b></p>		
<p>講義1：何のために発達を学ぶのか？ 「発達」を学ぶことの意味について少し考えてみます。「発達」を学ぶことが保育や療育等の発達保障実践にどのようにつながるのか、どのように活かすことができるのかについて学び合います。</p>		
<p>講義2：発達といいますか…発達とは？ 実践現場では、「発達」ということばを当たり前のように使うことがありますが、生活の中で「発達」ということばを使うことあまりありません。あらためて「発達」とはどういうことなのかについて考えてみます。</p>		
<p><b>第2回 7月 26日（日） 13:30～16:30</b></p>		
<p>講義3：発達のしくみ 「発達のしくみ」や「発達をどう捉えるか」について、田中等による「可逆操作の高度化における階層・段階理論」をもとに学びます。</p>		
<p>講義4：乳児の世界から幼児の世界へ 乳児期から幼児期への「生後第2の新しい発達の原動力の誕生」から1歳半の発達の節を越え「1次元可逆操作」獲得までの発達について学びます</p>		
<p><b>第3回 9月 27日（日） 13:30～16:30</b></p>		
<p>実践1：乳幼児健診の実践を通して 講義4の内容について、乳幼児健診における実践を例に学びを深めます。</p>		
<p>講義5：対の世界をゆたかに開く 1歳半の発達の節を越え獲得した「1次元可逆操作」の力がどのように「対の世界（2次元形成の世界）」を開いていくのかについて学びます。</p>		
<p><b>第4回 10月 25日（日） 13:30～16:30</b></p>		
<p>実践2：子育て支援の実践を通して 講義5の内容を踏まえ、「対の世界をゆたかに開く」とはどういう事なのかを、子育て支援の実践を例に考えます。</p>		
<p>講義6：揺れながら自分をつくる 対の世界（2次元形成）がゆたかに開いていくことが、4歳の発達の節を越え「2次元可逆操作」を獲得していくこととどのように関係しているのかについて学びます。</p>		
<p><b>第5回 11月 29日（日） 13:30～16:30</b></p>		
<p>実践3：保育の実践を通して 講義5の内容について、保育所巡回相談における実践を例に学びを深めます。</p>		
<p>講義7：繋がりに気づく 「3次元形成」の力を獲得し系列的なものを見方ができるようになることについて学びます。この時期の「生後第3の発達の原動力の誕生」により「9、10歳の発達の節」を越えることも念頭におき、就学後の生活との関係についても話します。</p>		

<p>集中講義 実践が楽しくなる実践記録</p>	<p>2026年度回数 1回</p>	<p>担当者 山本翔太 竹澤清</p>
<p><b>授業内容・テーマ</b></p> <p>日々の実践で関わる子どもやなかまの理解をもっと深めたい。自分自身の実践がこれでいいのかをふり返り、次の方向性を考えたい。そのような思いを実現していくために、実践記録を書いてみるという事は一つの大切な方法です。実践記録は日誌などのように、ただ「客観的事実を正確に書き写したもの」ではありません。そこには目の前にいる人の多様な姿や思い、そして、実践に込められた私たちのねがいが綴られています。実践記録を書くことによって、私たちは相手の思いを発見することができます。また同時に、「私はなぜこの実践に取り組んだのか」という意図を深く自覚することになります。それは、次なる実践の方向性を定めることに繋がる重要なプロセスなのです。しかし、日々実践に追われる中で、文章を書くことには少しエネルギーが必要になります。また、書くことを苦手と感じる人もいるかもしれません。自分の中にある思いを伝える言葉がなかなか出てこない人もいるかもしれません。まずは、実践記録を書く上で必要となる「見方、語り方、意味づけ方」を見つけていき、それらを言葉にしてみます。その上で、どのように実践記録としてまとめていくのか、様々な事例を通して一緒に学んでいきたいと思います。</p>		
<p><b>授業の流れ</b></p> <p>7月12日（日）12:45～16:45</p> <p>講義1 山本翔太（人間発達研究所運営委員） 「実践記録はなぜ大切なのだろうか？」</p> <p>講義2 竹沢清（元愛知県聾学校 あいち障害者センター） 「記録を問うことは、実践を問うこと——実践につなぐ記録——」</p> <p>ワーク 進行 山本翔太（人間発達研究所運営委員）</p> <p>振り返り (適宜休憩をはさみます)</p>		

<p>コース名 実践が楽しくなる「実践記録」コース</p>	<p>2026年度回数 集中講義+3回+個別添削</p>	<p>担当者 山本翔太</p>
<p><b>授業内容・テーマ</b></p> <p>実践記録を書くといいいことがあります。たとえば、日々向き合っている子どもやなかまの理解をもっと深めていくこと。また、実践に込められた自分の意図や目的を見つめなおし、次の実践への方向性をさだめることなどもできます。しかし、いざ実践記録を書こうと思っても、「何」を書いたらいいのか、「どう」書いたらいいのかなど、第一歩を踏み出すことにためらってしまうかもしれません。</p> <p>まずは、実践の一コマを言語化してみることから始め、実践記録を書く上で必要となる「見方、語り方、意味づけ方」を自分なりに見つけていきます。そして、それをもとに自分なりの実践記録をまとめていきます。</p> <p>実践の多様な見方・考え方を発見したい人、表現するための“言葉”を見つけない人、自分の実践の中から方向性を選んで文章化したい人、一緒に学びましょう。また、様々な分野で実践する受講者同士の交流を通して、新たな発見もあるかもしれません。</p> <p>10年後に読み返した時にも、「生き生きとした子ども・なかまの姿が目浮かぶ」ような記録を書くことをめざします。</p>		
<p><b>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</b></p> <p><b>1回目(7/12)：集中講義</b></p> <p><b>2回目(10/4)：実践記録を書こうとしてみる</b> 実践場面の切り取り方や行動のとらえ方・意味づけ方を考えてみる。</p> <p><b>3回目(11/15)：エピソード実践記録を書いてみる</b> 書いてみたエピソード記録を共有し、いきいきした姿が思い浮かぶか体験する。 (伝わっているかな?)</p> <p><b>4回目：個別添削</b></p> <p><b>5回目(2/14)：みんなで共有</b> 実践記録を読み合う 記述の仕方、表現方法について感想を出し合う 実践記録や実践の面白さについて語り合う</p>		

コース名 実践を学びあうコース	2026年度回数 5回	担当者 田村和宏
<b>授業の内容</b>		
<p>(ゼミの概要) (学びの概要)</p> <p>日々向き合っている障がいのある子どもや青年・高齢者へのとりくみ（活動や仕事）やその姿、生き方について、コースに参加している多様な職場の人たちの眼でいっしょに解きほぐしてみませんか。</p> <p>自分の実践を多様な視点から見直してみることで、「わたしも、なかなかやん」「こういう見方があったか」など、障がいのある人たちの内にある「ねがい」に触れ、新たな気づきに出会えて、自分自身も発達します。そんなコースです。</p> <p>発表される実践報告から、いま大切にしたいことについて意見交換したり、参加者の感想から自分のところではこうしているという比較の議論も起こったりします。難しい話をするというより、こんないろんな話が職場でもやれたらなぁという、職場を変えていくおみやげ付きのコースです。後半はミニ講義をすることもあります。「パニックを起こすのはなぜか」など実践の中で少し困っていることを議論もしようと思っています。</p> <p>時に田村からのミニ講義を考えています</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での生活を継続していくためには、何が必要か</li> <li>・職員集団をどうつくるか</li> <li>・グループホームと高齢化支援の中で必要になることは何か</li> <li>・職員集団をどうつくるか</li> <li>・放課後や余暇をどう過ごすのか</li> <li>・なかまづくりと対話</li> <li>・選挙にどう取り組んでいるか</li> </ul>		
<b>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</b>		
<p><b>第1回</b> 5月31日（日） <u>9:30~12:30</u> 「夜明け前の子どもたち」鑑賞とポイント解説</p> <p><b>第2回</b> 7月12日（日） 13:00~16:00 実践報告① 実践報告② ふりかえりとコメント</p> <p><b>第3回</b> 8月23日（日） 13:00~16:00 実践報告③ 実践報告④ ふりかえりとコメント</p> <p><b>第4回</b> 9月27日（日） 13:00~16:00 実践報告⑤ 実践報告⑥ ふりかえりとコメント</p> <p><b>第5回</b> 12月20日（日） 13:00~16:00 実践報告⑦ ふりかえりとコメント まとめ講義</p> <p>※予備日 上記の日程で終わらない場合に予備日の設定があります</p> <p>※年度途中に、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください</p> <p>※各実践現場の状況に応じて、レポート報告が後ろにずれるばあいもあります。</p>		



<p>コース名 発達基礎理論研究コース</p>	<p>2026 年度回数 10回</p>	<p>担当者 荒木穂積</p>
<p><b>講義内容・テーマ</b></p> <p>本コースでは、田中昌人らによって提起されてきた「可逆操作の高次化における『階層－段階』」（『階層－段階』理論と略称）の学習を、田中昌人らの著作や文献・資料を中心にすすめていきます。今年度は、幼児期の階層：幼児期Ⅲ（5,6歳児）の学習をすすめます。</p> <p>前半では園原太郎・黒丸正四郎『幼児の世界－成長する心－』（日本放送出版協会,1969年：テキスト2）および園原太郎『子どもの心と発達』（岩波新書,1979年：テキスト1）をもとに、幼児の知覚・認知,知能,創造性,興味,責任感,自制心,なかまの世界,感情の世界などの学習をすすめます。時代を超えて普遍性がある幼児期後期の発達の姿を学び合っています。</p> <p>後半では田中昌人の「可逆操作の高次化における『階層－段階』理論（『階層－段階』理論と略称）の学習と発達診断の実際」に焦点をあてて学んでいきます。テキストは田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断5：幼児期Ⅲ』（大月書店,1988年：テキスト3）です。ここでは5歳前半の第3の世界へのひろがり,5歳後半から6歳後半での生後第3の新しい力の誕生について深めて行きます。併せて田中昌人『人間発達の科学』青木書店,1980年,田中昌人『人間発達の理論』青木書店,1987年などの文献を手がかりに学習をすすめてゆきます。</p> <p>本コースでは冬期（2027年2月または3月を予定）に公開集中講義を計画します。今年度は「心の理論」や「実行機能」の発達についてとりあげる予定です。</p> <p>発達入門コース,発達診断方法論コース（基本編・臨床編）,人間発達研究所の研究科を履修中の人または修了した人はもちろんのこと,若手大学院生,発達相談,保育・教育,福祉,医療などの分野で研究や実践をしている人,『階層－段階』理論の実践と応用に興味をもっている人,『階層－段階』理論を再学習したい人など,乳幼児期の発達理論や実践に興味や関心のあるみなさんの参加を期待しています。</p>		
<p><b>授業の流れ</b></p> <p>第1回目：オリエンテーションおよび『階層－段階』理論の歴史的変遷（概要）と幼児期の階層（3次元形成期および3次元可逆操作期）の解説,前半の発表分担（テキスト1・2）</p> <p>第2回目：『幼児の世界－成長する心－』（その1）</p> <p>第3回目：『幼児の世界－成長する心－』（その2）</p> <p>第4回目：『子どもの心と発達』（その1）</p> <p>第5回目：『子どもの心と発達』（その2）</p> <p>※前半のふり返りと『子どもの発達と診断5：幼児期Ⅲ』の後期の発表分担（テキスト3）</p> <p>第6-10回目：『子どもの発達と診断5：幼児期Ⅲ』（テキスト3）</p> <p>①「第3の世界へ」,②5歳前半の発達診断,③生後第3の新しい力の誕生,④5歳後半から6歳後半の発達診断など</p> <p>※後半のふり返りと補講</p>		
<p><b>テキスト</b></p> <p>(1) 園原太郎・黒丸正四郎『幼児の世界-成長する心-』日本放送出版協会,1969年</p> <p>(2) 園原太郎『子どもの心と発達』岩波新書,1979年</p> <p>(3) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断5:幼児期Ⅲ』大月書店,1988年</p>		
<p><b>参考書</b></p> <p>(1) 田中昌人『人間発達の科学』青木書店,1980年</p> <p>(2) 田中昌人『人間発達の理論』青木書店,1987年</p> <p>(3) 京都教職員組合養護教員部（編）田中昌人講演記録『子どもの発達と健康教育②「我しり</p>		

そめし心」から「理しりそめし心のいとなみ』クリエイツかもがわ,1988年

- (4) 田中昌人『講座発達保障への道〈1〉児童福祉法施行20周年の証言』全国障害者問題研究会出版部,1974年(復刻版,2006年)
- (5) 田中昌人先生を偲ぶ教え子のつどい実行委員会『土割の刻-田中昌人の研究を引き継ぐ-』クリエイツかもがわ,2007年
- (6) 田中昌人『発達研究への志』あいゆうぴい,1996年
- (7) 田中昌人『発達の土割』あいゆうぴい,2001年
- (8) 田中昌人(監修)・「要求で育ちあう子ら」編集委員会(編)『要求で育ちあう子ら-近江学園の実践記録 発達保障の芽生え』大月書店,2007年
- (9) 田中杉恵『発達診断と大津方式』青木書店,1990年
- (10) 中村隆一・渡部昭男(編著)『人間発達研究の創出と展開-田中昌人・田中杉恵の仕事をとらして歴史をつなぐ-』群青社,2015年
- (11) 別府哲「五歳-六歳」『発達診断と障害児教育』(荒木穂積・白石正久編)青木書店, p.175-205,1989年
- (12) 服部敬子「5~6歳の発達と発達診断」『新版教育と保育のための発達診断 下 発達診断の視点と方法』(白石正久・白石恵理子編)全国障害者問題研究会出版部,2020年
- (13) NHK制作グループ瀬地山濤子『成長の記録 三才から六才へ-昌和たちの世界-』日本放送出版協会,1972年
- (14) 岡本夏木『幼児期-子どもは世界をどうつかむか-』(岩波新書),岩波書店,2005年
- (15) 岡本夏木『小学生になる前後-五~七歳児を育てる-』岩波書店,1983年,新版,1995年
- (16) 今井和子『子どもとことばの世界-実践から捉えた乳幼児のことばと自我の育ち-』ミネルヴァ書房,1996年
- (17) 子安増生・服部敬子・郷式徹『幼児が「心」に出会うとき-発達心理学から見た縦割り保育-』有斐閣,2000年
- (18) 柏木恵子『幼児期における自己の発達-行動の自己制御機能を中心に-』東京大学出版会,1988年
- (19) 子安増生『心の理論-心を読む心の科学-』岩波書店,2000年
- (20) 小塩真司『非認知能力の発達-生涯にわたる変化と影響-』北大路書房,2025年
- (21) J.ピアジェ,B.イネルデ(著),波多野完治・須賀哲夫・周郷博(訳)『新しい児童心理学』白水社(文庫クセジュ 461),1969年
- (22) J.ピアジェ(著),中垣啓(訳)『ピアジェに学ぶ認知発達の科学』北大路書房,2007年
- (23) C.ガーヴェイ,高橋たまき(訳)『「ごっこ」の構造-子どもの遊びの世界-』(育ちゆく子ども 0才からの心と行動の世界 6)サイエンス社,1980年
- (24) ヴィゴツキー・レオンチェフ・エリコニン,神谷栄司(訳)『ごっこ遊びの世界-虚構場面の創造と乳幼児の発達-』法政出版,1989年

#### DVD・動画など

- (1) 田中昌人・田中杉恵(監修)『DVD版発達診断の実際 第7巻 5歳児』大月書店,2009年
- (2) 田中昌人・田中杉恵(監修)『DVD版発達診断の実際 第8巻 6歳児』大月書店,2009年
- (3) 田中昌人・田中杉恵(監修)『DVD版あそびの中にもみる 5歳児』大月書店,2009年
- (4) 田中昌人・田中杉恵(監修)『DVD版あそびの中にもみる 6歳児』大月書店,2009年
- (5) 田中昌人・田中杉恵(監修)『スライド版子どもの発達と診断』幼児期篇全3巻,大月書店,1991年

本コースは,レジュメによる発表など参加型学習型のゼミナール形式でおこないます。DVDや動画など視聴覚教材を用いてすすめます。関連文献や資料を紹介・配布する予定です。

コース名 <心理専門職コース> 発達診断方法論 基本編コース	2026年度回数 1回	担当者 木下孝司
授業の内容 発達診断と保育・教育の専門性に基づいた子ども理解には、方法論の相違もありますが、子どもの内面世界を読み解き、その願いや悩みを再発見するという目標は共有されるものです。このコースでは、保育・教育のための発達診断を進めるために必要な、発達理解の基本を確認します。その上で、心理学に必要な子ども理解と実践的な子ども理解を接続する方法論を検討していきます。		
授業の流れ 8月29日（土） 1) 講義 保育・教育のための発達理解の基本 13時～14時30分 発達理論の必要性、発達理解の基本（機能連関、発達連関、発達の原動力と源泉）を確認して、保育・教育においてそうした発達理解が不可欠であることをお話します。 （休憩20分） 2) ゼミ テーマを定めて話し合い 14時50分～16時 発達診断において、それぞれの方が実践されている工夫や悩みを報告していただき、それらが理論的にもつ意味について議論します。その中で、「発達診断方法論 臨床編」における各自の学びのポイントを整理できればと思います。		

<p>コース名 &lt;心理専門職コース&gt; 発達診断方法論 臨床篇コース</p>	<p>2026年度回数 5回</p>	<p>担当者 松島明日香</p>
<p><b>授業の概要</b></p> <p>発達診断方法論 臨床篇コースは、実際に発達相談や教育相談に従事しようとする（あるいは、現にしている）人たちを対象にしています。受講にあたって、発達診断方法論基本編コースを一度受講しておられると理解がより深められると思います。</p> <p>本コースでは、主として発達の階層－段階理論に依拠しながら、子ども一人ひとりの発達を理解するための発達診断の方法論について事例を通して学んでいきます。子どもの発達は多様で、変化に富んでいます。それは魅力的である反面、発達理解において難しさを伴います。そこで本コースでは以下の2点に重点を置いて進めていきます。</p> <p>①理論的根拠をもった発達診断や発達のな子ども理解</p> <p>発達検査場面で見せる子どもの反応から、「できた」「できない」ということが発達の的に何を意味するのか、さらには子どもの“できた”や“取り組みかた”をどのような視点でとらえることが大切かを発達理論や発達研究を軸にしながら学びます。加えて、発達の見立てが難しいという声が多々聞かれる自閉スペクトラム症などの発達障害を抱える子どもの発達診断について、発達を診断するとはどういうことかについても考えていきます。</p> <p>②発達相談員が悩みややりがいを共有する場</p> <p>発達相談に従事する人は、業務の性質上、ケースを一人で抱え込んだり、自分の進めかたや見立てに一人で悩んでいることが少なくありません。同じ立場の人たちが集い、悩みを分かち合ったり、見立てを確かめ合ったり、さらには繋がりをつくる場にしたいと考えています。授業は対面で実施し、基本的に受講者の皆さんが発達診断において悩んでいる事例などを持ち寄りながら検討していく形式で進めていく予定です。</p>		
<p><b>授業の流れの一例（スケジュール・内容等の計画）</b></p> <p>第1回：発達診断の概要</p> <p>第2回：1次元可逆操作期（1歳半頃）の発達と発達診断</p> <p>第3回：2次元形成期（2,3歳頃）の発達と発達診断</p> <p>第4回：2次元可逆操作期（4歳頃）の発達と発達診断</p> <p>第5回：3次元形成期（5,6歳頃）の発達と発達診断</p>		
<p>&lt;参考図書&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 白石正久・白石恵理子『教育と保育のための発達診断 新版 下巻』全障研出版部</li> <li>▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断3 幼児期Ⅰ』大月書店</li> <li>▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断4 幼児期Ⅱ』大月書店</li> <li>▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断5 幼児期Ⅲ』大月書店</li> <li>▪ 荒木穂積・松島明日香・中村隆一・竹内謙彰・富井奈菜実「新しい発達診断法開発プロジェクト報告資料集 幼児期における発達の基本構造の検出と発達診断上の留意点」</li> </ul>		

コース名 研究科	2026年10月～ 2028年10月	担当者 渡部昭男・山田宗寛 ゲストアドバイザー 荒木穂積
-------------	-----------------------	---------------------------------------

#### 授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）

2年間で研究論文を執筆します（執筆は完了しなくても修了となります）。

応募いただいた方にオンライン面接（zoom）を実施し、研究内容や計画等を伺い、受講の決定をします。

2か月ごとに全体ゼミと発表会（Zoomにて開催、基本は隔月の第三水曜日）を実施し、指導教員との連携により執筆活動を支援します。

紀要への投稿を目指す場合は、先行研究やテーマの妥当性・独自性を必要とする原著に加え、実践記録、事例検討、研究ノート、動向、報告、実践紹介、資料等があります。

受講にあたっては、専門分野における学習や実践経験があること、または発達保障学校の関連するコースを修了されていることが望ましいです。

2年の流れは、以下の通りです。

- オリエンテーション、2年間のスケジュールの内定
- 計画発表会・指導教員（正・副）の委嘱（6か月目）
- 中間発表会（12か月目）
- 予備論文発表会（18か月目）
- 査読者とのやり取りと完成論文の提出（22か月目）
- 査読・修了（24か月目）となります。

※指導教員はできるだけご希望に添いたいと思いますが、諸般の事情により、こちらで決定させていただくこともあります。

---

人間発達研究所

〒520-0052 大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階

Tel/Fax 077-524-9387

Email [j-ih63su@j-ihd.com](mailto:j-ih63su@j-ihd.com)

URL <http://www.j-ihd.com/>

---